

造らないで、直すショーボンドってどんな会社？



**BRDG**



# 傷んだ橋を放ってはおけないという使命感

これからは、インフラ構造物は造るよりも、直して長持ちさせる時代です。

「老朽化する社会インフラ」「インフラの長寿命化」「維持補修の時代の到来」などのフレーズを聞いたことはありませんか。土木工学や建築工学を学んでいる方なら、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

ここ数年お会いする学生さんのなかにも、「維持補修やメンテナンスに興味がある」「仕事を通じて社会貢献がしたい」という方が増えてきています。しかしながら、問題意識はあっても、どのようにしたらメンテナンスに携われるのか、構造物の維持補修に関わっていきけるのが、よくわからないということはありませんか。

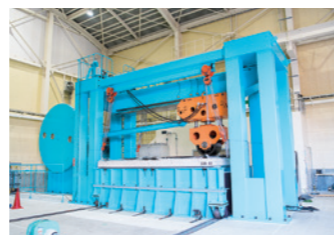
当社は、メンテナンスの重要性が叫ばれる以前から、長年にわたり橋梁やトンネル、ビルディングなどの構造物の補修・補強に施工者として直接関わってきました。これまでに蓄積された技術力やノウハウは、抜きだしていると自負しています。また、当社の事業は、大切な公共インフラ構造物を技術力と施工力により、甦らせ新たな命を吹き込むという社会貢献度の高い事業です。

この冊子は、日々社会貢献度の高い仕事を通じて成長していく社員たちにスポットライトを当て、その人となりを紹介しています。

「未来へつなぐ」  
コネクトマーク



ショーボンドのあちこちに顔をだすこのマーク。造らないで直すをモットーとするショーボンドの理念と、橋=84(はし)BRDG (BRIDGE)を直して未来へつなぐ「橋渡し役」を担う私たちの想いがこめられています。



## ひとりの人間として仕事を全うすべき

[東京営業所] 白石文香 (入社6年目 ※インタビュー取材当時)

## “女性だから”という考えは持たないほうがいい

—働いていて男性との違いは感じますか？

「まだ女性が少ない職場なので、お客さまなどに印象深く覚えてもらえるというのはメリットのひとつですね。4年ぶりにお会いした作業員の方がしっかり覚えてくださっていたのはそのおかげだと思います。“細かいところに気付く”とか“気が利く”と言われたこともあります。それは女性目線ならではのかもしれませんが、デメリットは体力面がついていかないときに感じました。また、法律上女性が就くことができない職種もあります。正直、作業員や職長がその職種について話しているときに、そばにいてわからないこともあったので悔しく思いました。また、施工管理の仕事をして、はじめは作業員さん側がどう接していいかわからない空気は感じました。次第に解消できましたが、

いずれにしろ、“女性だから”という考え方は持たないほうがいいと思います。自分自身に甘えも生まれかねないですし、周囲にも気を遣わせかねないです。男女関係なくひとりの人間としてやるべき仕事を完遂すべきだと考えて仕事をしています」

—どのようなときにやりがいや楽しさを感じますか？

「足場を掛けるところから見続けてきた現場が、無事故で終わって綺麗に仕上げられたときは、やりきったと思います。維持補修をメインに行っている会社は唯一無二です。そんな仕事に携わっていることは誇りに感じています。

また、新しい部材を取り付けるための計測を行う際に計測方法を工夫しているときは、個人的に楽しさを感じます。その場所での方法でどのようにすれば効率がいいか考えるのは、大学では学べませんでした。入社後の知識です」

—今後の目標はなんですか？

「新卒入社の女性技術者で、監理技術者となった人はまだいません。私は現場代理人は経験していますが、現場での技術担当であ



る監理技術者を目指したいです。課題は多くありますが、自分の現場を持つのが大きな目標です」

## 得られる知識と活躍できる場の多さが嬉しい

—新設と維持補修の会社で迷っている学生にアドバイスをお願いします。

「近年、大手ゼネコンも維持補修に力を入れはじめていますが、維持補修専門で60年以上の歴史があるショーボンドは、この分野においては、スーパーゼネコンにも勝てる力があると思います。今後もなくならない、なくてはならない仕事です。ショーボンドは大手に比べれば少数精鋭。その分、得られる知識や活躍できる場が多いです。成長は早いと思います」

—施工管理を目指す女性へメッセージをください。

「コミュニケーション能力が高く、いろいろなことに気付ける人は施

工管理に向いていると思います。男女の性差を気にすることなく、強い信念を持って自分がなにをしたいのかを考えられることが大事です。

女性技術者は増えています。施工管理だけでなく、設計職や営業職もいます。困ったときに相談しやすい環境なので怖がらずに挑戦してください」



TIME SCHEDULE								
7:30 (出勤)	8:00 (朝礼)	9:00 (現場)	12:00 (昼食)	13:00 (昼礼)	13:30 (現場)	16:30 (現場)	17:00 (現場)	20:00 (帰宅)
現地KY (危険予測) の実施。	作業開始。始業前点検を実施し、安全に作業が行えるようにする。現場の進捗確認、品質管理、出来形管理、写真管理。作業員一人ひとりの体調もチェック。		午前の進捗確認、午後と明日の業務予定の打ち合わせ。	作業再開。午前中と同様業務。	現場業務終了。後片付け、清掃、点検、施錠確認の実施。		事務所に戻り、書類整理。翌日以降の業務の段取り確認。	

嫌なことがあっても引きずらない、気にしない。リフレッシュすることは実はとても大切なこと。

BRDG

## 設計職も現場に出て知識を増やす

[首都圏北陸支社技術部] 宮永和範 (入社8年目※インタビュー取材当時)



## 重要な社会インフラに設計したものが残る喜び

— 設計職を希望した理由と業務内容を教えてください。

「図面の変更や設計計算書の見直しなどが自分に合っていると感じて希望しました。図面を引くだけでなく、お客さまとの折衝、工程の調整なども行います」

— 設計職における楽しさと厳しさを教えてください。

「自分で設計したものが形として残り続けるのはとても嬉しいです。部材が実際に橋に設置されるまでは、お客さまと協議をして、承認してもらう必要があります。技術部だけでなく現場の工事担当者や営業など、みんなと協力することで、橋という重要な社会インフラに自分の意思を反映できるのは楽しいです。」

反面、設計は工事の前段階の工程なので、お客さまの要求に合っているか、技術基準を満たしているか、安全に工事ができるのか、前例はあるのか、追加予算は必要なのかなど、考えることは山ほどあります。設計の遅れやミスは現場の遅延につながるため細心の注意が必要です。そのようななかで、納期が短い工事は厳しいと感じることはありますね」

— 心がけていることはありますか？

「業務効率化と優先順位をつけることです。設計も現場も細かい点まで気を遣いますが、メリハリをつけて改善していくことが大事だと考えています」

— 設計職も現場に出るのですか？

「もし自分がある現場を任せられたら、どんな手順で工事を進めるか、安全に施工できるのかということを考えて設計を行うので、設計職も工事の知識は必須です。いろいろな現場を経験することはとても勉強になり、必ず設計業務の役に立ちます。現場経験はとても大切です」

## 達成感、やりがい、誇りを感じられる仕事です

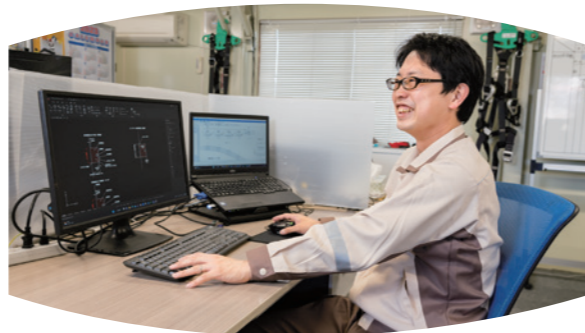
— 達成感、やりがいはどんなときに感じますか？

「現場でもそうでしたが、やはり設計でも担当した工事が終わったときは、安堵とともに苦勞が報われた達成感を感じます。工事は派手なことをやっているように感じるかもしれませんが、当社は現場でも設計でもミリ単位の地味で繊細な調整を数多く行っています。その工程を当たり前のように、かつスピーディに行っている点は、誇りに思います。」

橋を渡る人々の安全を守るのがショーボンドの仕事です。安全を確保する責任があり、やりがいがあります。将来、子どもや孫に「これを設計したんだよ」と言えるような仕事をしたいですね」

— 就活中の学生へメッセージをお願いします。

「就活中は悩むこともたくさんあるでしょう。ただ、適度に悩む時間もある必要だと感じます。それは就職後も同様で、難しい業務に悩むことはありますが、その分、充実感や達成感を感じられる仕事です。日本中の“橋”の安全を守りましょう」



## TIME SCHEDULE

8:00 (出勤)	9:00 (内勤)	10:00 (外出)	12:00 (昼食)	14:00 (外出)	16:00 (帰社)	16:30 (内勤)	18:00 (帰宅)
設計業務と社内打合せ。客先との打合せ資料確認。現場からの電話対応。		現場調査に向かう。	現場近くの店にて。毎日ほぼ外食。	客先との打合せ。方針の確認、図面の提出。	打合せ結果を確認し、上司に報告。今後の方針の相談など。	打合せ議事録の作成などを行う。	

業務は効率化しつつ、  
解決は優先順位をつけて。



## 安全保持、工程計画、工事品質、すべての責任を担うのが施工管理

—施工管理の業務を教えてください。  
 「現場の監督業務に加え、工事変更時の設計にも関わります。安全保持、工程計画、工事の品質、そして利益など、要求されることが多く、すべての責任を負う職種です。責任の重さは感じますが、その分やりがいも感じられるし、待遇も良いと思います。ショーボンドは入社後、比較的早い時期から施工管理に就ける会社なので、目的を持っている人には向いていると思います」  
 —維持補修工事のやりがいと難しさとは？  
 「自分の計画した工程通りに施工が進んだときは達成感があります。」

一方、古い橋の補修をする場合、実際の現場が当時の図面と違うことがあります。発注元は図面に対して設計をしているのですが、図面でまっすぐに書かれていても実際には捻れていたり、劣化の箇所が現場で新たに見つかったりすることもあるので、現場に入ってみないとわからないという難しさがあります。そういう場合は計画の練り直しになります」  
 —今後の成長目標はありますか？  
 「自分の成長はもとより、社員一人ひとりがレベルアップすることで受注工事も増えて利益も上がると思います。安全や工程を任せられる社員がいれば現場にかかる人数も減らせるというメリットがあるので、工程の計画は重視されます。安全面では無事故というのは

大前提で、先に事故が起こりそうなポイントをなくしていく、危険な要素を減らすことが大事です。それは常に意識しています」  
 —就職を考えている学生へメッセージを。  
 「維持補修の工事は需要があり、今後も増えます。道路や橋など日常に当たり前にあるものを延命させられるのは誇れる仕事です。就職の際は、自身のなかに譲れない判断基準を作り、それを満たしていれば辛くても頑張れるし、どんな困難も乗り越えられると思います。私自身その考え方で決めました」



## STAFF INTERVIEW

### 自分のレベルアップが会社の利益にも繋がる

【首都圏北陸支社工事部】  
 門間 永悟  
 (入社6年目※インタビュー取材当時)



## NUMBER COLUMN



創業から60有余年。いまでは補修補強のプロ集団に  
 1958年6月4日、「昭和工業株式会社」として設立登記され、1975年「ショーボンド建設株式会社」に改称。2018年に創業60周年を迎えた。今後も「変化こそ進歩なり」という創業者・上田昭の遺志を継ぎ挑戦を続けていく。



## STAFF INTERVIEW

### 人のためになる仕事をしたいくて、維持補修を選びました

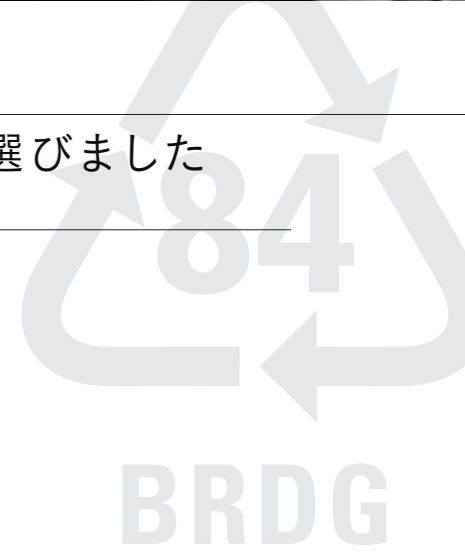
【北日本支社技術部】 及川あかり (入社6年目※インタビュー取材当時)

#### 時代の流れに沿った新しい働き方 ショーボンドはその可能性を探れる

—なぜ土木の仕事を選んだのですか？  
 「自分の人生をかけて仕事をするのだから、身近なテーマがいいと思いました。専門知識が増えれば仕事以外のシチュエーションでも日常にあるものの見え方が変わって人生を豊かにできると思い、土木に興味を持ちました」  
 —維持補修のショーボンドに入社した理由を教えてください。  
 「新設は日照権や騒音、立ち退き問題などもあって、必ずしもみんなが幸せになるわけではないと思い、その反面、維持補修はすでに生活のなかにあるものを対象にしていて、それがなくて困る人はいるけどあって困る人はいないと思えたんです。人のためになる仕事がしたいという思いが前



提にあったので、維持補修を選びました」  
 —入社を考える女性へメッセージを。  
 「設計職は内勤と思われるかもしれませんが、工事現場に行き、足場もない斜面を這って登ることもありました。女性でも多少体を張ることはありますね。私は楽しんでましたけど(笑)。  
 私は今後、結婚したら第一線で大きな仕事をするのは難しいと思っているので、家庭と両立するための働き方を探します。それが会社のためにもなると思っています。仕事以外も充実させるとなると自分のタスク管理をしながら働いていくわけで、今後はそういう働き方が増えると感じています。近い将来に結婚・出産をするかもしれない私が、そのロールモデルになれたらいいなと。プライベートも充実させて仕事を続けられるように、まず私が実践して、その働き方をほかの人でもできるような形に……これは女性に限らず、男性もそういう働き方ができる、前例になればいいですね。ショーボンドはそういう働き方の可能性が探れる会社だと思います」



## NUMBER COLUMN



営業利益率・経常利益率ともに建設業界No.1  
 2023年の業界新聞で発表された収益別ランキングで、営業利益率・経常利益率ともに首位となった。利益を上げるのが難しいと言われるメンテナンス分野を専業で行っているにも関わらず、高い収益力を維持している。

## 入札時に競合他社の考えを読み、工事を受注する面白み

[東京営業所] 廣中 奨 (入社7年目※インタビュー取材当時)

### 建設会社のなかでは裏方だけど 仕事が成功した達成感は大い

—営業職を希望したのですか？

「いいえ。土木・建築系の大学を出て、最初から営業を希望する人は稀だと思います。ショーボンドは入社したらまず数年間は工事の現場に配属されるのですが、異動を打診されたときは正直驚きました。ただ、営業はやりたくてもやらせてもらえない職種でもあるので、経験を積んでみようと思いました。異動して3年経ったころから楽しくなってきましたね。」

主な業務は、入札案件での設計価格の算出、工事の変更対応や製品の販売対応です。入札では競合他社の考えを読んで、どういった形でくるか、ショーボンドだったらくらいで受注できるかを考えることにも面白みがあり、受注できたときは達成感があります。工事はまず受注しないと始まりませんので、会社の業務を裏で支えている気持ちで、やりがいは大いです」

—営業を行ううえで心がけていることは？

「全体を見る視野の広さを持つと同時に、小さなことを漏らさないよう細かくチェックをすることです。工事見積り、数量、さまざまな数字、さらに図面を見て設計に漏れないかなど、各所で確認を怠らないことです」

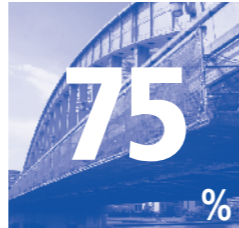
—ご自身にとって今後の課題は？

「自分の考えで変更対応や入札・受注ができるように、上司の動きや対応を見て知識や経験を積み上げていきたいと考えています。もともと人前で話すのは得意ではなかったのですが、いまは入札時のプレゼンも行っています。それでもまだ経験していないことが多いです。お客さまによって工事の発注の仕方も設計も変わるので、それによってプレゼン内容も変わります。多くの現場を経験することは施工管理と同じですね。」

内勤が多いのですが、ショーボンドは社内の雰囲気がいいので楽しく成長できると思います」



### NUMBER COLUMN



#### 2040年には建設後50年を経過する橋が7割越えに

2020年には建設から50年経過したものが、全体の30% (約219,000橋) だったのに対し、20年後の2040年には75% (約547,500橋) にまで昇る。高度経済成長期以降急速に整備された多くの橋が50年を超えることで一気に増えるわけだ。

## 資格取得や論文発表など、目標を掲げて知識を増やしたい

[補修工学研究所 無機グループ] 薬師 寺 輝 (入社9年目※インタビュー取材当時)

### ショーボンドの強みは現場、構造、有機、無機の複合的知識の豊富さ

—研究所への異動を希望したそうですね。

「入社後は技術部において、現場と図面を書く設計を6年ほど担当していました。ショーボンドはもともと接着剤などの有機材料の研究をしてきていますが、2019年にコンクリート系の無機グループが発足しました。大学時代にコンクリート関連の研究をしていたので、経験を活かせると思い希望を出しました」

—研究業務で嬉しいことはなんですか？

「研究して製品を作っても採用してもらえないと陽の目を見ません。現場で使われはじめて数年は、製品がしっかりと性能を発揮できるか、不具合はないか不安な面もあります。それだけに、自分の関わった製品が現場で使われて良いレスポンスがあるととても嬉しいです。現場へ行って研究結果を肌で感じることもあります。関わった製品が使いやすい、よい材料だという現場の声を聞くとやり切ったよかったです。期待する結果が得ら

れない場合は材料の配合を変えて何度も試験を繰り返す地道な作業となりますが、結果が出たときは達成感があります。現場での施工指導や学会活動などで社内外問わずさまざまな人に会えて、貴重な体験ができるのもいい刺激になります」

—ショーボンドの研究所のメリットは？

「構造的知識、無機、有機材料の知識を複合して研究しているのはショーボンドの強みと言えます。維持補修を行ってきた長い歴史に裏打ちされた経験・知識が蓄えられていますし、現場や設計部署からの声をフィードバックして研究活動に生かせるスピード感もショーボンドらしさです。」

—今後の目標はありますか？

「知識はもっと増やしたいです。研究所に来てからコンクリート診断士を取得したのですが、今後は技術士の取得を目指します。対外的には新しい研究結果の論文発表をするなど、常に目標は持っています」



### NUMBER COLUMN



#### 全国橋梁補修工事受注ランキング第1位

2021年度の全国橋梁補修工事受注ランキングでは、400億円超で首位に。近年、他社もこの分野を伸ばしてきているが、まだまだ第2位の企業には大差をつけての第1位となった。地道に固めてきた地盤は揺るがない。



## 自分のために必要だと思うこと、やりたいと思うことは積極的に

—2022年に転職して入社されました。  
「はい。前職は新設設計で、建設の計画や提案をしていて現場には出ず、図面を見るだけでした。橋を理解するのに限界を感じ、より現場での経験を身に付けたいと思い、ショーボンドに入社しました」  
—入社後はどのように感じましたか？  
「技術部は設計ばかりかなと思いましたが、現場へ行く人も多いです。ショーボンドは現場至上主義だと感じました。  
現場の問題は実際に行かないと解決できないことも多いし、相談されても現場で見ないとわからなかったりします。維持補修の設



## STAFF INTERVIEW

### どの部署でも職種でも、現場に出ていない人はいない

[首都圏北陸支社技術部]  
ラピアン ペラニ  
(入社1年目※インタビュー取材当時)

## NUMBER COLUMN



### 借入金の総額0円 健全で安定した経営

創業以来、維持補修一筋に堅実な経営を貫いてきた。その結果、借入金に依存する必要のない、健全で安定した経営を続けている。新たな事業機会を確実にとらえるためには、ショーボンドの強固な財務基盤は大きな強みとなる。

計は、直すために構造計算をして実際になにがどれくらい必要か、どのように直していくかを決める仕事です。近くで見ると予想以上に時間がかかることがわかりましたね」  
—仕事をしていて楽しいことや、今後の目標を教えてください。  
「足場に入って作業をするなど、現場での新しい経験は楽しいです。現場の担当者から「施工が無事にできたよ。ありがとう」と言われたときは嬉しかったですね。設計職は現場のアシストをする役割で、地味に見えるかもしれませんが、それでも橋の寿命を



延ばすために必要なプロのひとりとして、その責任を果たせたことは誇りに思います。  
—今後は現場での問題解決業務や設計変更の業務に携わりたいです。そのためには現場経験をもっと積み、より現実的な設計ができるようになりたいと思います。プレッシャーもありますが、もっと勉強しようと思います」  
—就職活動をする学生さんへメッセージを。「自分が本当にやりたいことを追求してください。その経験は絶対に無駄にならないと思います。精一杯努力することがいい結果につながります。現場に出たいとか、やりたいことは積極的に言ってみてください。ショーボンドは希望に耳を傾けてくれる会社だと思います」



## NUMBER COLUMN



### 数えきれない製品数で 補修ニーズにお応えします

補修の現場では、現場の数だけ多種多様な損傷や劣化がある。それらに対応するための製品は、実に数千種類に及ぶ。常に最新鋭の実験設備を使って開発・応用・改良に取り組み、いまでもその数を伸ばし続けている。数字にすれば∞だ。

## STAFF INTERVIEW

### 新たな発見が多い 海外事業部という 部署も知ってほしい

[ショーボンドマテリアル(株)海外事業部]  
岡本 珠実  
(入社3年目※インタビュー取材当時)

### 海外の法律についても調べて 土木独特の英語も勉強している

—入社のきっかけを教えてください。  
「中学生のときに発生した東日本大震災がきっかけで、復興のための街づくりなどがメディアで取り上げられていて、そのころから建設業界を目指しました。大学の教授がショーボンドの顧問をしていて補修などに詳しく、話を聞いていました。その後、就活時に維持補修ひと筋という歴史を知ってさらに興味を持ちました。自分はなにかもやれるタイプではないので、専門的な分野に進みたかったです。ショーボンドは専門土木というカテゴリーで、維持補修に特化している点に魅力を感じました」

—入社後の感想は？

「維持補修は新設よりも専門的な世界というのはわかっていたのですが、入社して感じたのは、製品供給という営業職の立場はもっとスマートな仕事を想像していましたが製品提案や販売をするためにそこまで調べるのかと、ショーボンド社員が最前線に立って泥臭くやっていることに非常に驚きました。でもそれがショーボンドにとっての“普通”なんだと知り、感激しました」

—海外事業部はどんな部署ですか？

「ショーボンドが培ってきた技術を世界に展開するための部署です。現在の業務としては資料の英訳、輸出可否の確認と輸出必要書類の提供、ショーボンドと三井物産の合併会社の顧客に対する施工サポート・技術サポー

トなどがあります。どんな製品を売っているのかを知っておくために、できるだけ現場へ行って製品の使われ方などを見るようにしています。製品が工事で使われているのを見られると嬉しいです」

—今後の目標はなんですか？

「自分の“できる”と“できない”を決めなくて、常に学ぶ姿勢を忘れずに新しいことにチャレンジしていきたいですね。特に海外事業部はそういう傾向が強いんです。研究所もあり、新製品の開発も行うショーボンドならではの良さをお客さまに提案していきたいです」





ショーボンド建設株式会社  
代表取締役社長  
岸本達也

ショーボンド建設は、1958年の創立以来、いかにしたら構造物を長持ちさせられるかという事を追及してきました。社会資本（インフラ）を建設するには、莫大な時間と資金、さらにはエネルギーを消費しなければなりません。そうして建設された構造物が、経年劣化や地震等の災害、または交通荷重による疲労等により、短い年数で壊れてしまつては社会にとって大きな損失です。

社会資本を良好な状態で次世代に引き継ぐこと  
ショーボンドに課せられた使命です。

今ある社会資本を良好な状態で次世代に引き継ぐ、その為に必要な努力と実行を絶えることなく続けていくことがショーボンドグループに課せられた使命だと確信しております。

インフラのメンテナンスを信頼感と安心感を持ってまかせて貰える、SHO-BONDというブランドを確立していくことが、私たちの誇りであり願いです。

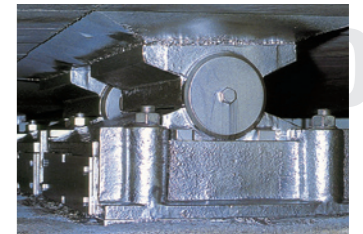
相手にする構造物は橋梁、トンネル、鉄道、電力施設等、多岐にわたります。さらに形状から劣化具合まで、同じものは二つと無いといっても過言ではありません。それぞれの構造、劣化状況を判断して適切な処置ができるように、日々、研究・開発・設計・工事の技術を磨いています。当社の理念にご賛同頂ける仲間が増えていくことを期待しています。

FROM SHO-BOND

## 会社概要

商号  
ショーボンド建設株式会社  
SHO-BOND CORPORATION  
本社  
〒103-0015  
東京都中央区日本橋箱崎町7番8号  
TEL.03-6861-8101(代)  
設立  
1958年6月4日  
資本金  
101億円  
建設業許可  
国土交通大臣許可(特-4)第1345号  
建設コンサルタント登録  
国土交通大臣登録建05-第4470号

ショーボンドグループ  
ショーボンドホールディングス株式会社  
ショーボンドマテリアル株式会社  
SHO-BOND&MIT インフラメンテナンス 株式会社  
東北化工建設株式会社  
化工建設株式会社  
関東化工建設株式会社  
横浜化工建設株式会社  
新潟化工建設株式会社  
中部化工建設株式会社  
関西化工建設株式会社  
中国化工建設株式会社  
四国化工建設株式会社  
九州化工建設株式会社  
キーナテック株式会社  
保全技術株式会社  
SHO-BOND(ホンコン)LTD.





**SHO-BOND**

